

北海道・空知中部広域連合

# 1市5町が 広域で取り組む介護保険

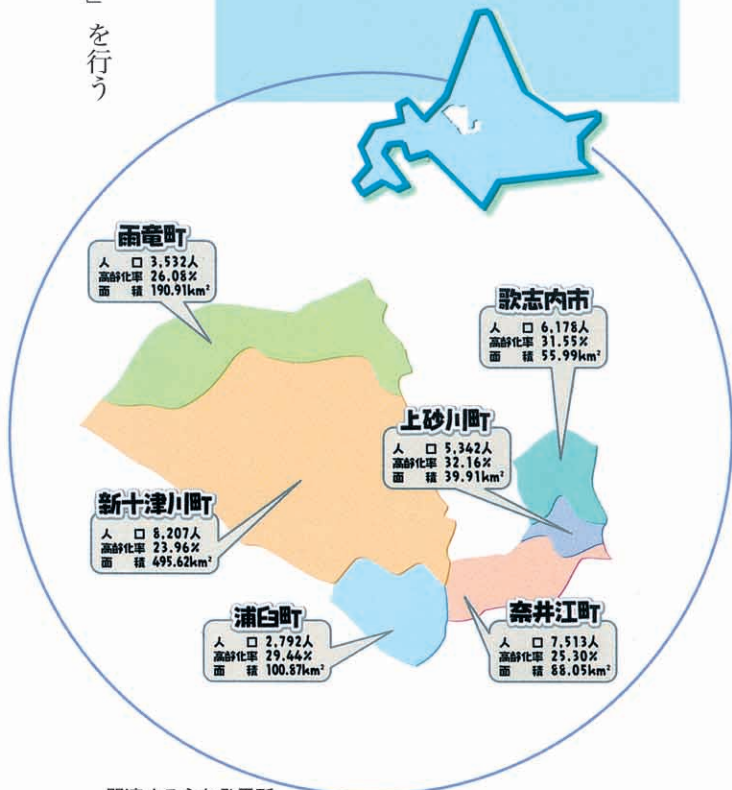
## 奈井江・浦白2町で 広域医療連携

平成七年、奈井江町立国保病院が五年間の準備期間を経て、「オープンシステム病院」に生まれ変わりました。小規模自治体としては全国初のことで、十二床を地域の開業医・診療所に開放し、地域の医師とセンター病院の医師が、二人で一人の患者を診るという体制を整え、高度医療機器も共同利用できるようにしました。そのころ隣接する浦白（うらうす）町で、診療所の後任医師が見つからないという事態が起こり、奈井江町と浦白町は協議の末、奈井江町立国保病院を中核医療機関に、

## 厚生省のモデル事業から 広域連合の結成へ

平成八年、二町は介護保険のモデル地域の指定を受け、厚生省のパイロット事業「ICカードによる高齢者ケアサービス・システム」に取り組みました。これはサービススタッフ間の情報の共有、ケアの継続記録、サービスデータの蓄積、要介護者へのサービス提供などを、ICカードによってシステム化しようという試みです。一年間のこの実験期間を通じて蓄積したノウハウは、広域連合の介護サー

二町で「広域医療連携」を行うことにしました。



関連する主な発電所  
発電所名/奈井江発電所（火力・北海道電力）  
所在地/北海道空知郡奈井江町  
隣接市町村/上砂川町、浦白町、新十津川町など  
発電所名/砂川発電所（火力・北海道電力）  
所在地/北海道砂川市  
隣接市町村/歌志内市、上砂川町、浦白町、新十津川町など

ビスシステムに引き継がれました。またモデル事業の一環として、三年間にわたり介護認定審査のシステム作りにも挑みました。「調査↓審査↓判定」の試行を繰り返して、「審査会委員の人材確保」「審査基準の公正化」などの課題を解決していきました。平成九年四月からは上砂川、新十津川、雨竜（うりゅう）の三町も加わり、十二月には歌志内市も参加して、一市五町で介護保険モデル事業を進めました。こうして平成十年四月に広域連

## 介護保険制度を 広域で行うメリット

- 空知中部広域連合の取り組みは――
- 一、介護保険全般
  - 二、訪問看護ステーションの共同運営

■介護認定審査会の委員構成

自治体名	資格・所属
奈井江町	医師
	歯科医師
	医師
	医師
	地域医療推進室・看護婦
浦臼町	民生委員協議会
新十津川町	社会福祉協議会
	民生児童委員協議会
雨竜町	住民課保健婦
	特養ホーム職員
上砂川町	民生児童委員協議会
	民生児童委員協議会
歌志内市	医師
	民生児童委員協議会

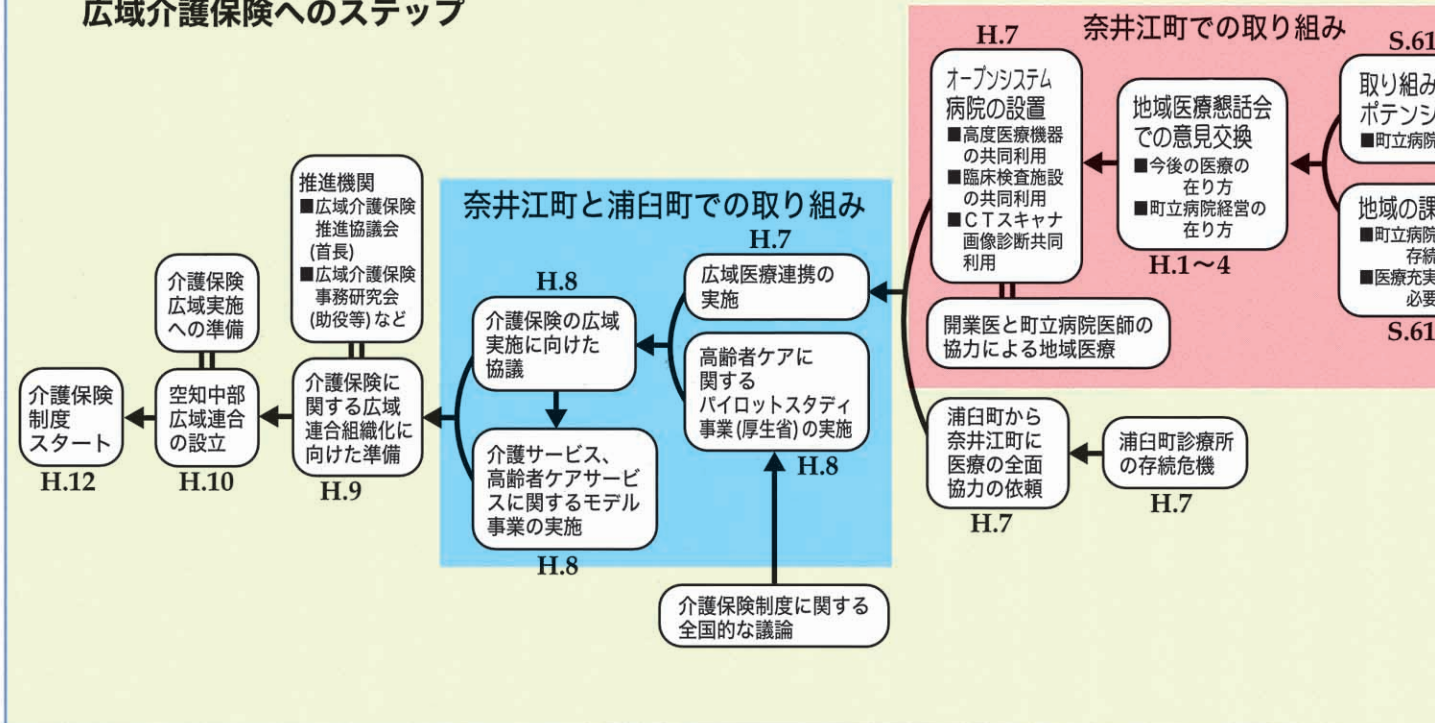


介護認定審査会

三、国保事業の広域化  
 四、老人保健医療の広域化  
 五、医療の広域化  
 六、高齢者介護システムの共同化  
 —などを主な内容にしています。介護保険事業の中で、とりわけ広域化メリットが大きいのが「介護認定審査会」の運営です。審査会の委員は医師、保健婦、福祉関係者など、保健・医療福祉に相当の知識と経験を持った人が求められます。しかし市町単独でそうした人材を確保するのは容易ではありません。現在、空知中部広域連合の介護認定審査会の委員は十四人ですが、各市町の負担は単独の場合より大幅に軽減されており、委員の構成もバラエティーに富んだものとなっています。認定審査会をテレビ会議で行うシステ

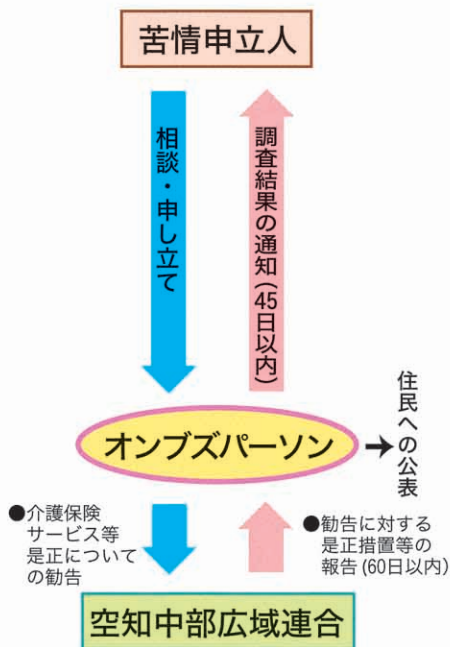
ムも開発され、認定の効率化・スピード化が促進されました。  
**介護保険スタート  
 広域で  
 問題点に対処する**  
 四月一日から介護保険制度がスタートしました。事務局では「介護サービスの平準化」「行政職員の交流・情報交換」「経費削減」など、広域化メリットは着実に上がっているとされています。一方で、顕在化した問題点の調整も進めており、介護保険に携わる人たちの情報を一元化するため、一市五町のサービス事業者を集めた「施設等連絡協議会」を設置しました。また各地の建設協会に依頼して、住

広域介護保険へのステップ





### ■オンブズパーソン制度の流れ



宅改修協力業者のリストを作成中です。これらの情報は全域のケアマネジャーに提供されることになっていきます。ケアマネジャーの勉強会も定期的に行っています。広域連合事務局の小沢敏博さんは、「ケアマネジャーが力を発揮できるかどうかは、信頼できる事業者の情報をおだけ多く蓄積できるかにかかっています。また事業者同士の情報交換が活発になれば、サービスレベルも向上するでしょう」と話しています。

### 奈井江町で 全国介護保険広域化推進 会議の設立総会

六月二十九日・三十日の両日、奈井江町で、「全国介護保険広域化推進会議」が開催されました。全国の広域連合や一部事務組合など約六十団体、四〇〇を超える市町村から五六〇人が参加し、

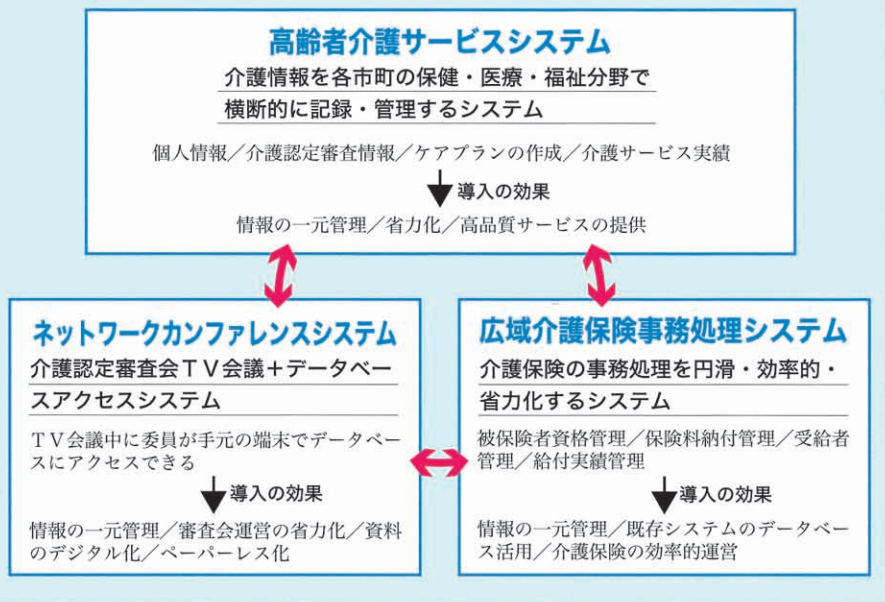
広域連合では「オンブズパーソン制度」を設け、介護保険全般の相談に応じています。事務局と各市町村の窓口で相談を受け付け、各管内三人のオンブズパーソンがそれに対応しています。また毎月定期相談日を設けるなど「住民に開かれた介護保険の推進」に努めています。

同会議の設立総会、シンポジウムが行われました。介護保険の広域連合としての取り組みや課題に熱い議論が交わされ、「推進会議」の今後の活動に多方面からの期待が寄せられました。十月からは六十五歳以上の高齢者からの介護保険料の徴収が始まり、利用者の目は一段と厳しさを増すことが予想されます。

事務局は「広域内の連携を強め、住民への説明を丁寧に行い、介護保険の仕組みなどを理解してもらおう努力を続ける」としています。介護保険制度はまだ始まったばかりです。空知中部広域連合の取り組みと、全国の介護保険広域化推進の動きに今後も注目が集まることでしょう。

### ■介護サービス総合支援システム

介護保険制度を効率的に運用するためのトータル・ネットワーク・システムで、「高齢者介護サービスシステム」「ネットワークカンファレンスシステム」「広域介護保険事務処理システム」の三つを有機的に連携させ、複数の自治体が広域で運用できるようにしています。



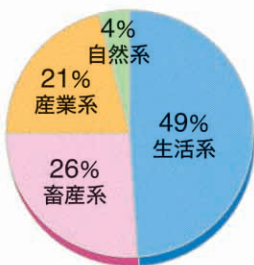
熊本県・菊池川流域同盟

流域21市町村が共同で  
菊池川の水質浄化に挑む

昭和40年代から  
汚濁が進む

熊本県北部を東西に流れる菊池川は、阿蘇外輪山を源流とし玉名市で有明海に注ぐ、全長七十一キロメートルの川です。電源市町村の菊池市や大津町もこの流域にあります。水源に近い菊池渓谷はブナやケヤキなどの豊かな森に包まれ、約千種類に及ぶ草花が繁茂し、透明な水の中ではヤマメやウグイ、アユなどが身を躍らせています。渓谷の水は「日本の名水百選」に選ばれています。しかし河口部の玉名市の海岸では、昭和四十年ころからアサリ漁の被害が報告されるようになり、昭和五十年代にはほとんど全滅の状態にな

■21市町村・業種別汚濁負荷量  
(菊池川流域同盟調べ)



りました。昭和六十年代には流域住民を中心に河川浄化への意識が高まり、菊池川流域同盟結成へ向けての機運が醸成されてきました。流域市町村の調査によると、水質悪化の主な原因は、①生活系排水②畜産系排水③産業系排水④川砂の採取——などとなっています。

菊池川サミットの開催

平成元年十月、玉名市役所、玉名市地域婦人会、建設省菊池川工事事務所などの呼び掛けで熊本県内の菊池川流域二十一市町村(支流の市町村も含む)が一堂に会しての「菊池川サミット」が開催されました。総会では元NHKアナウンサーで熊本県立劇場館長の鈴木健二さんが務め、その場で「菊池川流域同盟」を結成、「菊池川浄化共同宣言」を採択しました。この日、十月十八日を記念して、間近の日曜日を「菊池川の日」と定め、毎年、イベントを開催することを決めました。

菊池川流域同盟は流域二十一市町村で構成され、アドバイザーとして建設省菊池川工事事務所、熊本県、「菊池川とその支流を美しくする関係団体連絡協議会」、「玉名市地域婦人会連絡協議会」が加わっています。事務局は現在、玉名市に置かれています。年間予算は各市町村から拠出された約四百万円で、基本的には市町村が主導して事業を行っています。

■菊池川流域同盟の構成

- |     |      |      |
|-----|------|------|
| 菊池市 | 大津町  | 西合志町 |
| 合志町 | 泗水町  | 七城町  |
| 旭志村 | 山鹿市  | 植木町  |
| 鹿本町 | 菊鹿町  | 鹿北町  |
| 鹿央町 | 玉名市  | 菊水町  |
| 南関町 | 三加和町 | 岱明町  |
| 横島町 | 天水町  | 玉東町  |

(アドバイザー) 建設省/熊本県/菊池川とその支流を美しくする関係団体連絡協議会/玉名市地域婦人会連絡協議会



菊池渓谷



関連する主な発電所  
発電所名/菊池川第四発電所など(水力・九州電力)  
所在地/熊本県菊池市  
発電所名/黒川第一発電所など(水力・九州電力)  
所在地/熊本県大津町



パシャパシャフェスタのちらし



## 「河川を美しくする条例」

平成四年七月、流域二十一日市町村の議会は、統一条例「河川を美しくする条例」をそれぞれ議決・制定し、行政、事業所、住民が一体となって、河川環境浄化に努力することを定めました。条例の中で、「河川の汚濁防止」に関して、次のような具体的な活動指針を打ち出しています。

- 水質保全目標の設定
- 廃棄物投棄の禁止
- 生活排水の浄化。浄化槽などの設置の促進
- 無リン洗剤、石鹼などの使用の促進
- 化学肥料の適正使用
- 事業用排水の浄化。排水目標値の遵守

### ■事業用排水目標値

水素イオン濃度 (pH)	5.8~8.6
生物化学的酸素要求量 (BOD)	最大160mg/ℓ
浮遊物質 (SS)	最大200mg/ℓ
※対象は工場・事業所などの事業活動を行う全業種	
※検定方法は昭和46年総理府令第35号第2条に基づき環境庁長官が定める方法による	

## 「河川水援隊」の活動

各市町村は河川の浄化を推進するため、条例に基づき「河川水援隊」を設置。三人の水援隊員が①水質、環境の監視と異常の通報②河川浄化に関する提言③行政が行う河川浄化啓発活動への協力——などの活動をしています。年に一度、全市町村の水援隊員が集まり、研修会を行います。研修会では、毎回専門家を講師に、水に関する勉強をしています。

### ■河川水援隊員研修年度別テーマ

年度	テーマ	研修地
8年度	水環境と水生生物	三加和町
9年度	菊池川大発見	三加和町
10年度	古老に聞く菊池川	七城町
11年度	水環境問題	水俣市

## 事業所や畜産農家などへの指導

二十一日市町村は、統一条例の目標数値を基準にして、水質汚濁防止法の対象外の事業所などに対して水質検査を行っています。目標値を上回る事業所に対しては、特に罰則は設けていませんが、指導や改善の要請を行っています。その結果、合併浄化槽の設置が進み、事業用排水に関しては徐々に改善が見られます。畜産農家が野積みするたい肥にはビニールシートをか





け、雨水により流れ出ないよう指導。また採石場の跡地は、植林したり草地にするよう指導、要望しています。

## 「菊池川の日」のイベント

平成二年から、十月の「菊池川の日」には水のイベントを開催してきました。平成十年は、建設省菊池川工事事務所のアドバイスを受け、イベントに代わり、阿蘇町深葉地区の国有林伐採跡地に植林を行いました。ヘクタールに三千本を植え、将来は「流域同盟の森」として育成していく計画です。造林には林野庁と熊本県の補助を受ける予定です。

今年のイベント「菊池川シンヤバシファエスタ2000」は岱明(たいめい)町の松原海岸で行いました。川と海で遊ぶうぐということで、初めて八月に開催しました。「流域対抗綱引き」「〇×クイズ」などのステージイベント、「廃油石鹸作り」「ヨット体験」「流木貝殻アート」などの遊ぼうコーナーのほか、「川と海のギャラリ」では「流域パネル展示」

「メインオブジェ」「水質教室」などの展示が行われました。

## 菊池川浄化運動 次の10年に向けて

水援隊員の活動や情報誌「ホタル情報」の定期発行などで、川に対する住民の意識は大きく変わりました。不法投棄や事業所排水などに対する監視や連絡など、積極的な行動が増えていきます。官と民が協力し合つての十年間の活動により、菊池川の水質は改善されてきました。旭志(きょくし)村、南関(なんかん)町、泗水(しすい)町などでホタルの繁殖が見られるようになり、アサリ漁も徐々に回復しています。

同盟結成から今年で十年。これを機に、各市町村で記録してきた「水のデータ」をまとめ、各方面に「水質改善」をアピールする計画です。また事務局の持ち回り制、県や国、住民との連携方策など、組織の活性化に向けての新たな取り組みも始まっています。菊池川流域同盟は「同盟の森造林事業」など、次の世代を視野に入れた、息の長い取り組みを心掛けています。



### 河川水質浄化へのステップ

